

2017年の日本ねじ産業の状況

日本ねじ工業協会
専務理事 大磯義和

はじめに

日本のねじ産業は、このところ活況を呈している。ねじの主な需要家である自動車業界をはじめとする産業が元気だからである。工作機械業界は、受注が好調で生産が追い付かないとうれしい悲鳴を挙げている。一方で、世界経済の中心的存在である米国の保護主義の圧力や貿易戦争の行方が気になりである。世界経済の動向によって影響を受ける日本経済にも不透明さが残る。本稿は、このような状況下での2017年における我が国ねじ産業の状況を報告する。

1. ねじの生産

2017年の生産金額は8954億円(対前年度比3.6%増)、数量は321万トン(対前年度比4.6%増)となった。これまでの14年間の生産推移を図1に示す。国内景気の下降と共に2013年から減少に転じた自動車生産の影響をもろに受けたことが、ねじ生産の減少の大きな原因であった。これを裏付けるように2014年、2015年と対前年比マイナス傾向が続いていたのであるが、2016年、2017年と景気の持ち直しが見られて対前年プラスとなった。この結果、2008年のリーマンショックの影響を受ける前年の水準にまで戻りつつある状況が見られる。ここにきて、国内景気を下支えする形で海外における自動車の生産・販売が増加したことにより、2016年からの景気回復につながったと見ている。

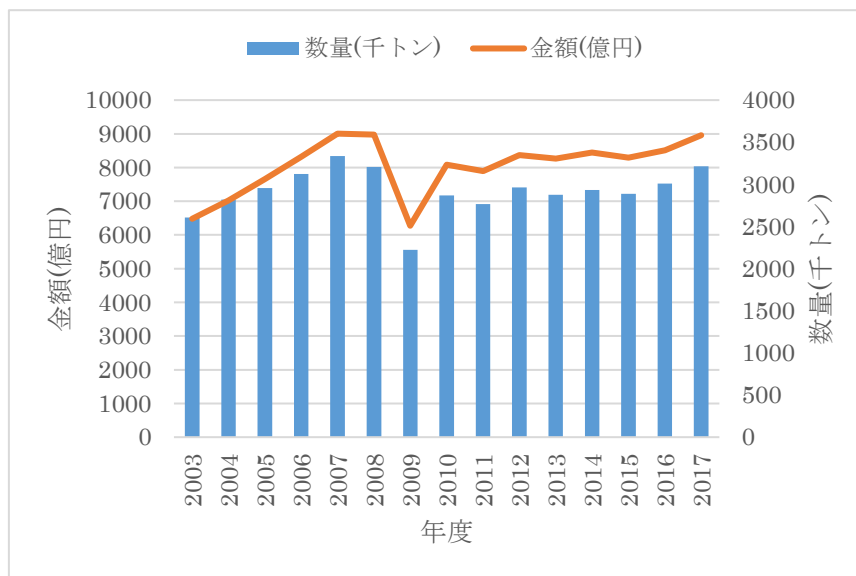


図1-ねじの生産(当協会の推計)

2. ねじの輸出

図2に輸出状況を示す。2017年の輸出金額は2992億円(対前年比8.4%増)、数量は35万トン(対前年比4.3%増)となった。このことは、海外生産を行っている日系メーカーへの供給が好調だったことが挙げられる。一方で、現地調達の様子、海外ローカル企業との価格競争も激しくなっており、いつまでも安泰が続くとは限らない。

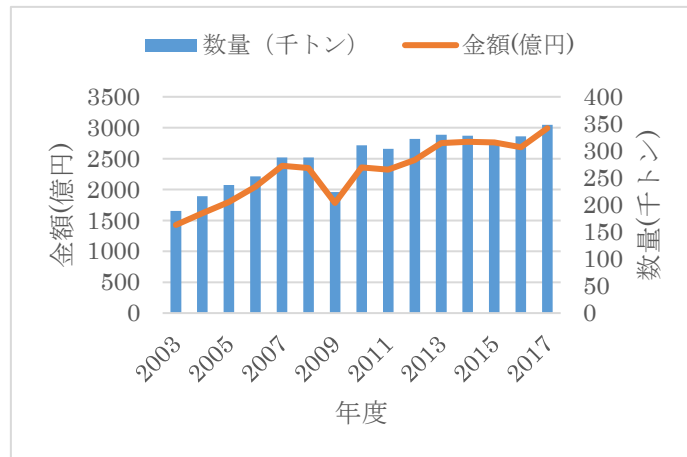


図2—ねじの輸出(財務省貿易統計)

3. ねじの輸入

図3に輸入状況を示す。2017年の輸入金額は899億円(対前年比12%増)、数量は24万トン(対前年比4.8%増)となった。このことは、国内景気の持ち直しと安価な輸入製品へのシフトが進んでいることだと見て取れる。数量の伸びもさることながら、金額の伸びが大きくなってきていることは、1本当たりの価格も上昇していることがうかがえる。輸入品が付加価値を付けての価格上昇となれば、価格差だけが魅力とは言い切れない状況になってこよう。

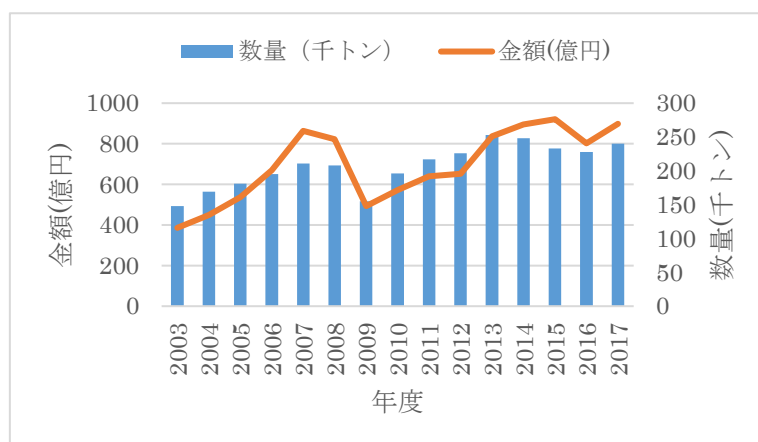


図3—ねじの輸入(財務省貿易統計)

おわりに

貿易戦争の行方に目が離せない状況が暫く続くが、総じて世界経済は発展すると思っている。長期的な関心事項は、自動車の電動化がどこまで進むかである。産業構造がいくら変化してもねじの需要はなくならないとはいえ、緊張感をもっていなければいけないと思っている。

硬い話はここまでにして、日本の風景の一つである「桜」の写真を載せてこの稿を終わりとする。

